

25. 当院における未治療糖尿病網膜症の網膜硝子体手術成績

眼科学

和泉田真作, 松島博之, 妹尾 正, 高橋佳二,
寺田 理, 小原喜隆

【目的】 当院初診時に網膜硝子体手術の適応となった未治療糖尿病網膜症例の検討。

【対象・方法】 対象は平成10年1月から平成14年12月までに獨協医大眼科を初診後, 早期に網膜硝子体手術適応となった未治療糖尿病網膜症症例33症例40眼, 平均年齢 56.5 ± 10.1 歳(男性23例27眼, 女性10例13眼)である。未治療糖尿病網膜症症例について血液所見, 糖尿病罹患年数, 受診した理由, 糖尿病網膜症の分類, 術前および術後視力, 術後合併症についてレトロスペクティブに検討し, 統計学的に解析を行った。

【結果】 初診後早期に網膜硝子体手術適応となった未治療糖尿病網膜症症例は50歳台にピークを認めた。糖尿病罹患年数の平均は10.7年で, HbA1cも平均8.55%と高値であり, 長期間血糖コントロールが悪い状態で放置していた症例が多い。手術適応の理由として硝子体出血が多く, ほとんどの症例で術後2段階以上の視力の向上を得ていた。術後合併症として血管新生緑内障の発生が20%と多く, 視力増悪症例の原因となっていた。

【結論】 初診後早期に網膜硝子体手術適応となった未治療糖尿病網膜症症例も術後良好な経過を得ることが出来るが, 血管新生緑内障の発生頻度が高く, 積極的なレーザー光凝固や厳格な全身管理の基に, 術後の血管新生の出現に留意して経過観察を行う必要がある。また基本的には, 内科医との連携を強め, 早期に治療を開始することが大切である。

26. 2型糖尿病患者における atorvastatin の血中MCP-1及び高感度CRP値に対する効果について

越谷病院内科(内分泌代謝・血液・神経)

成瀬里香, 竹林晃三, 塚越乃亜, 中野智紀,
山本留理子, 末次麻里子, 松本幸子, 若林貞男,
犬飼良尚, 奥村期一, 麻生好正, 犬飼敏彦

【目的】 高脂血症合併型糖尿病患者における atorvastatin の抗炎症作用を調べ検討した。

【対象と方法】 高脂血症合併2型糖尿病患者27例を無作為に atorvastatin 投与群と非投与群に分け, それぞれ0週及び12週後に各種炎症マーカーを測定した。また, ベースラインでのコントロール群として健常者29名に対してもこれらのマーカーの測定を行った。

【結果】 糖尿病患者での高感度CRP及びFibは健常者に比し有意に上昇していた。atorvastatin 投与群において高感度CRPは有意な低下を認めた。他方, MCP-1は atorvastatin 投与群全症例では投与前後で有意な変化を認めなかったが女性群において有意に低下した。PAI-1, fibrinogen に関して有意な変化は見られなかった。